

健康しそう21(第3次)及び第2次宍粟市食育推進計画 中間評価・一部改訂 参考資料

※次の数値目標は計画から一部を抜粋しています。 ■評価判定基準 ○…改善 △…改善ならず

評価指標		策定 実績値 2017年	目標値 2028年	実績値 (2023年)	評価	計画後期に特に推進する取組
周囲の人（近隣・友人）に支えられて子育てをしているという実感が「大いにある」と答えた人の割合の増加		66.7%	85.0%	72.2%	○	こども家庭支援センターを設置し引き続き、母子保健・児童福祉の一体的支援を行います。また地域で子育てを支援できるよう情報を発信します。
この地域で、今後も子育てをしていきたいと思う人の割合の増加		97.4%	100.0%	96.9%	△	子育て支援サービスの充実を図ります。
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をとることが1日2回以上、ほぼ毎日ある人の割合の増加	20歳以上 男女	59.6%	70.0%	64.2%	○	世代に応じた食生活に関する基礎的な知識の普及・啓発を図ります。
運動習慣者の割合の増加	20～64歳男性	17.4%	27.0%	【参考値】 20～59歳男女 18.5%	【参考】 ○	「毎日プラス10分の身体活動」を増やすことによる健康への効果を周知します。 各種事業において、ウォーキング教室や運動関連事業を紹介します。 ラジオ体操のさらなる推進を図ります。
	20～64歳女性	7.1%	17.0%			
	65歳以上男性	26.0%	36.0%	【参考値】 60歳以上男女 34.0%	【参考】 ○	
	65歳以上女性	32.3%	42.0%			
ストレスを感じることがよくある人の割合の減少	20歳以上男性	22.5%	18.0%	22.4%	○	身近な相談機関・窓口の周知を図ります。
	20歳以上女性	26.4%	21.0%	30.8%	△	
喫煙が健康に及ぼす影響について知っている人の割合の増加	肺がん	86.8%	100.0%	92.9%	○	喫煙が健康に及ぼす影響についての理解を深められるよう周知を行い、受動喫煙についての啓発にも取組みます。 兵庫県作成の未成年者用のリーフレット「たばこのこと知っている？」などを配布し、禁煙教育を推進します。 妊娠期、子育て世代への禁煙を推奨します。
	喘息 気管支炎	60.9%	100.0%	66.1%	○	
	早産・低体重児出産	37.1%	80.0%	31.5%	△	
	脳卒中	34.1%	80.0%	37.4%	○	
	心臓病	30.5%	80.0%	34.1%	○	
	歯周病	25.8%	80.0%	28.7%	○	
	COPD（慢性閉塞性肺疾患）	22.9%	80.0%	25.0%	○	
休肝日を設けている人の割合の増加	20歳以上男性	33.0%	80.0%	42.8%	○	特に10代・20代について、健康に及ぼす影響について正しい知識を身につけることができるよう、飲酒の適量について周知を図ります。
	20歳以上女性	62.6%	100.0%	67.8%	○	
むし歯や歯周病になると、糖尿病、心疾患、動脈硬化、がん、肺炎等の病気になりやすくなることを知っている人の割合の増加		50.2%	75.0%	51.6%	○	引き続き定期的な歯科健診の受診や歯石の除去等による歯周病の予防について啓発を行います。
特定健診受診率の向上		42.7%	60.0%	41.0%	△	健診を受診することの重要性について周知・啓発をします。
食育について関心がある人の割合の増加	20歳以上男女	54.6%	90.0%	60.1%	○	家庭、学校、地域と連携し、あらゆる世代が食にふれることができる食育活動を実施します。
家庭で、非常時の食の備えをしている人の割合の増加	20歳以上男女	19.2%	50.0%	35.7%	○	家庭での備蓄食品や非常時に応用できる調理技術等、正しい知識の普及啓発に取り組めます。
食品を購入したり食事を作るとき、ごみを少なくするために「作りすぎ」や「買いすぎ」をしないように心がけている人の割合の増加	20歳以上男女	79.8%	90.0%	82.2%	○	食べ物の「買いすぎ」や「作りすぎ」「食べ残し」の削減に取り組めます。
宍粟市産のお米や野菜を主に食べている人の割合の増加	20歳以上男女	62.2%	80.0%	51.8%	△	地産地消の重要性について啓発し、学校や家庭、地域等における地場産物の活用を促進します。
宍粟の伝承料理・郷土料理を作ることができる人の割合の増加	20歳以上男女	49.9%	60.0%	67.7%	○	こどもの頃から食に関する様々な経験をし、宍粟の食文化にふれることで、次世代への食文化の継承を推進します。

健康しそう21(第3次)及び第2次宍粟市食育推進計画 重点施策

●身体活動・運動●

【みんなの行動目標👉】～身体活動・運動をはじめよう つづけよう 楽しもう～
より多くの人が運動習慣を身につけられるよう、様々な身体活動・運動機会の提供を図ります。

【計画後期に特に推進する取組】

20～64歳女性の歩数は増加し、その他の年齢は減少するなどコロナ禍による運動機会の減少も要因と考えられます。「毎日プラス10分の身体活動」を増やすことの健康効果の周知や、事業の紹介など、運動を推進していきます。



●休養・こころの健康●

【みんなの行動目標👉】～ストレスとうまく付き合い、いきいきと生活しよう～
休養やこころの健康について、正しい知識の普及・啓発を行い、自分に合ったストレス解消方法を持つことを促します。

【計画後期に特に推進する取組】

「睡眠で休養が十分にとれていない人の割合」「ストレスを感じることがよくある人の割合」ともに減少しておらず、女性においてはやや増加しています。コロナ禍による心理的影響も要因の一つと考えられるため、取組みを継続し経過をみる必要があります。

「ストレスや悩みを感じたときに相談できる機関がある、または、相談できる人がいる人の割合」は男女ともに増加しており、相談窓口など必要な情報の提供を継続して行います。

●歯と口腔●

【みんなの行動目標👉】～生涯を通じて歯と口腔の健康を維持しよう～
歯と口腔の健康は身体全体に影響があるなど、歯と口腔の健康を維持することの重要性を啓発します。

【計画後期に特に推進する取組】

「3歳児健診でのむし歯のない子の割合」は増加、「12歳児の1人あたりのむし歯の本数」は減少しており、子どもの口腔環境は改善傾向です。成人においても、歯と口腔の健康を維持すること、定期歯科検診の重要性の周知も徐々に進んでいます。「80歳代で自分の歯が20本以上ある人の割合」も改善しており、引き続き定期的な歯科健診の受診や歯石の除去等による歯周病の予防について啓発を行います。

●家庭、学校、地域、行政等が連携した食育の推進●

【みんなの行動目標👉】～食育に関心を持ち、食育の環を地域に広げよう～
食育活動や小さいころから食事作りに参加することの重要性について普及・啓発するとともに、食育に関わる人材の育成や能力の向上に取り組めます。

【計画後期に特に推進する取組】

健全な心身を培い、豊かな人間性を育むため、市民一人ひとりが食育の意味や重要性を理解するとともに、家庭や学校、地域、行政等が食育に関心を持ち、宍粟市全体で連携しながら、一体的に食育を推進します。